



熊大、久留米の学会で発表
水俣病の三氏

水銀説めぐり討論

熊大、久留米の学会で発表

水俣病

「水俣病」をとりあげたシンポジウムが十八日から久留米市で開かれた日本精神神経学会でとりあげられ、参加者から活発な質問が出され三時間余にわたって討論が行なわれた。まず九大教授勝本司馬之助博士を座長に熊本大内科助教授徳田比古、同病理学講師森川信博、同神経科教授宮川九平太の三博士が水俣病の臨床、病体生理、病理学的所見などについてそれぞれ専門的な立場から研究を発表した。

臨床、動物同実験の結果と脳の破壊状態などから従来通り有機水銀原因論を出したのに対して、宮川教授はタリウム水銀と鉛の間にある元素で、同者と似て毒性が強いと説を述べたが、追加発表した神戸大公衆衛生学喜田村正次、熊本大生化学内田信男の両教授はともに有機水銀説を支持する発言をした。

これをめぐって「末しう神経にはどんな変化があるか」（熊大内村祐之助教授）「無機水銀が魚や貝の体中で有機水銀に変わる

のが事実とすればそれは珍しい発見だ」（東邦大薬理戸木田菊次教授）「工場従業員には影響が現われていないか」（阪大精神神経科金子仁郎教授）「無機タリウムを使つた自分の経験ではあんな変化は起こらなかった。有機水銀の動物実験はものすごい脳の変性が起こっているのが驚いた」（千葉大荒木直昭教授）さらにさきごろ水銀原因説を否定し、アミン系毒物による中毒説を出して注目された東京大清浦雷作教授が「レタミンBもが魚病の

予防に役立つのではないかなどつぎつぎと活発な質問意見がのべられた。これに対して発表者から「解剖所見は中枢神経の変化がおもでまた末しう神経も異常がある水俣病は魚貝類を多く食べたものだけに発生する。レタミンBも不足状態のときはマウス（はつかねずみ）では確かにかなりやすい」などの回答があった。

最後に内村博士が「いままで有機水銀ではかなりの発病率」とい

ことは定説にはなっていないが、水俣病では多くの患者があり、しかもどこにもないようなはつきりしたデータが出ている。外国の文献などにこだわらず研究成果を主張してほしい」と要望、シンポジ

ウムの幕を閉じた。▽内村博士の話 水俣病についていままで聞き、またマスコミの本をみて有機水銀説が当たっているように見える。